

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900470
法人名	(有)レインボープラス
事業所名	グループホーム 虹の森
所在地	〒798-2101 愛媛県北宇和郡松野町大字松丸551-1
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然あふれる静かな環境の中で、敷地内には小規模多機能型居宅介護と介護付有料老人ホームがある。行事など事業所間の協力を行い、他利用者との交流の場を設けたり地域の情報交換の場にもなっている。緊急時の対応においても協力体制が出来ている。事業所では、家庭的な明るい雰囲気の中で、一人ひとりの状態の把握に努め、高度な認知症の方でも常に声かけを心掛け、愛情を持ち接している。また、できる事に焦点を当てながら、利用者の立場に立ったケアを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道路沿いに建つ事業所の敷地内には、有料老人ホームと小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、利用者同士が気軽に行き来ができるよう配慮されている。今年3月には新しいグループホームを町内に開設予定である。昨年9月に異動があったばかりの管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にしながら今までの運営を継続できるよう取り組んでおり、利用者の重度化も進んでいるが職員と一緒に安心したケアが提供できるよう努めている。利用者と一緒に地域行事へ参加したり、定期的な地域ボランティアの訪問があるなど、交流を深めている。事業所恒例の「夕涼み会」にはたくさんの地域住民の参加があり、利用者が住み慣れた地域の中でその人らしい生活ができるよう支援している。利用者は、職員の明るい笑顔に支えられながら穏やかな日々を過ごすことができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 (有)レインボープラス

(ユニット名) グループホーム 虹の森

記入者(管理者)

氏名

竹本 香代子

評価完了日

平成 26 年 12 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「愛と真心と思いやりの心」の理念のもと目標にあるあいさつ、気配り、心配りと信頼関係作りに努め利用者が安心できる生活の場を職員全員で共有しながら日々新たな気持ちで介護、支援を行っている	
			(外部評価) 法人理念を事業所内の見やすい場所に掲示し、管理者と職員は高い意識を持って実践している。事業所内では毎年1月の職員会で理念を基にして年間目標を考えており、先日のスタッフ会にて今年目標を「報・連・相」と決め、新たな目標の達成に向けて意欲的に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所の行事には地域の方々にも声かけし参加して頂いたり、散歩などの際にも声をかけたり、かけていただいたりしている。また、買物などにも出かけたりしている	
			(外部評価) 事業所のイベントが地域行事と重なることもあるが、毎年恒例の夕涼み会では、近隣住民や大勢の子供たちの参加があり、歌や踊りをボランティアに披露してもらい交流をしている。散歩や買い物時に近隣住民と会話するなど日常的に交流しており、野菜などのお裾分けをもらうこともある。誕生会等にもボランティアの訪問があるなど、交流が深まっている。また、保育園児や小学生、中学生などとの交流をしたり、少人数からでも地域行事に参加したりするなど、さらに交流が深まることを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域ネットワーク会議や運営推進会議などにおいて、認知症についての理解や支援の方法などについて発信している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 会議を重ねるごとに認知症について理解していただくようになってきている。委員に駐在所のおまわりさんにも参加いただくようになり、毎回質問や相談、助言もあり日々のケアの向上にも繋がっている。地域の情報等も教えていただいている</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、町担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、区長、消防団長、駐在所所長など、幅広い参加者を得て開催されている。会議では事業所の利用状況や活動報告を行い、参加者と意見交換をしている。「事業所前の道路への飛び出し事故を防ぐため、玄関先にポールを置いてはどうか」という意見が参加者から出され、職員間で話し合いポール設置工事を施工するなど、サービスの向上に活かしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 日頃から、地域包括センターや町の介護保険係の方から助言を頂いたり運営推進会議にも積極的に参加してもらう中で相談をしたり情報交換等も出来ている</p> <p>(外部評価) 自宅での生活が困難になった高齢者世帯に対し、地域包括支援センターや他事業所と話し合いを重ね、連携して問題解決を図るなど、行政からも頼られる事業所となっている。また、町担当者が運営推進会議に出席し助言をもらったり、町主催の地域ネットワーク会議に参加して、常に情報交換を行い連携を深めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束については、全ての職員が正しい理解が出来るよう学習会を行っている。日々のケアにおいても常に目配り、気配りを行い工夫をしながら対応している</p> <p>(外部評価) 身体拘束防止等のマニュアルを作成し、職員会やミーティング等で話し合いを重ね、身体拘束をしないケアを実践している。日中は玄関の施錠をしておらず、利用者が自由に出入りすることができるよう配慮されており、見守りケアを徹底している。また、日々の業務の中で地元の方が利用者にきつく受け取られるケースもあるため、言葉づかいについても常に職員間で気をつけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職場のミーティング等において学習したり、日頃のケアの中でも身体的虐待だけでなく言葉の虐待に繋がっていないか、注意を払いながら指導も行っている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今回必要と考えられる利用者があり、包括支援センター・ケアマネ・家族との連携により成年後見人の手続きが行われた。この事により身近な問題として各職員も成年後見人制度について学ぶ機会を得た	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前や制度改定時には、利用者やその家族に対し十分な説明を行い、納得された上で契約を行っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に家族やご本人にも参加して頂き、意見や要望などを言える機会を設けている。また、プラン作成時や面会時にも要望を尋ねたりしている。要望などは出来る限り実現できるようスタッフ会議で話し合い対応に努めている	
			(外部評価) 利用者や家族等の意見や要望は、運営推進会議や5月に行われる家族遠足などで聞くよう努めている。面会時や電話連絡をする機会を活用して、意見を聞くこともある。転倒事故のあった利用者の家族から、「再度の転倒を予防して欲しい」との要望が出され、ミーティングで話し合った結果、ベッドでの就寝から床に布団を敷いて就寝するよう変更している。出された意見は、職員間で話し合い対応できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) 月1回事業所のスタッフ会議の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映できるように努力している。また、会社全体のミーティングでは代表者も出席し運営等についての説明や意見を聞く機会もある</p> <p>(外部評価) 毎月午後6時からスタッフ会を開催し、15分程度の勉強会と職員同士で活発な意見交換を行っている。現場での課題を職員が意見を出し合い、申し送りノートを使用し職員全員で共有している。管理者は職員の意見を尊重し、働きやすいシフトを組むなどコミュニケーションを図りながら、働きやすい職場環境づくりや信頼関係づくりに努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 職員が向上心を持って働ける様、資格取得の機会を与えたり、応能に応じた給与の検討にも努力している</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 職員一人ひとりに合った研修会への参加や資格取得への働きかけを行っている。毎月、スタッフ会議や全体ミーティング等において内部研修を行ったり、可能な限りの外部研修を受ける機会を確保している</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) 市町村主催の研修会への参加や町の地域ネットワーク会議では、他事業所との情報交換を行いながらサービスの質の向上に努めている</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) ご本人と話し合いをする機会を密に取り、不安の解消や要望を可能な限り受け止めるよう努めている。必要に応じて事前見学なども進めている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事業所の特徴等を十分説明した上で、家族の困っている事や要望に耳を傾け可能な限り対応を心掛け、安心して利用して頂ける様関係づくりに努めている	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族と必要なケアについて話し合いを持ち他のサービスの情報提供も行いながら必要なサービスを検討している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の立場に立ち、負担にならない程度に家事の手伝いをしてもらっている。また、して頂いた時はお礼を述べ感謝の意を表すようにしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 生活の状況や受診状況等を定期的・随時に家族に報告し、ご本人と家族が疎遠にならないよう配慮しながらご家族ができる事をして頂ける雰囲気作りに努めている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域のテレビ等により情報を集め提供したり、散歩などに出かけ近所の方と会話したりしている。また、知り合いの方が利用されている小規模事業所に行き会話できる機会を作っている。 (外部評価) 利用者の自宅近くに住む友人や知人の面会があり、職員は快く受け入れをしている。虹の森公園に散歩や買い物に出かけたり、近くの病院を受診したりした場合には、知人から声をかけてもらうことも多い。外出時に知り合いばかりに会うことを嫌い、外出することを躊躇する利用者もいるが、カラオケが趣味で「今も歌いよるかな」と親しく声をかけてもらうなど、嬉しい場面もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、気の合った者や会話ができるよう席の位置を工夫したり、その人に合ったレクや手伝いが行えるよう努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院期間が長期化したりしてもいつでも気軽に相談に応じるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思の疎通が難しい利用者の方が多くなっている為、日々関わる中で知り得た情報をもとに本人の立場に立ちながら検討している	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、ちょっと小耳にはさんだことでも気に留めて思いや意向を把握するよう努めている。利用者の思いは可能な限り実現できるよう努めており、「命がないので家に帰らんといかん」という思いを聞き、一緒に自宅へ帰ったことで気持ちが落ち着いた利用者もいる。思いを言い表すことが困難な利用者には家族に意向を確認している。把握した情報は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用開始時に、ご本人やご家族にこれまでの暮らし方などを聞いたり、関わっていた介護サービス事業所の情報提供を頂きながらこれまでの暮らしの把握に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご本人やご家族からの情報提供やスタッフ間で情報を密にしながら日々の心身の状態把握を行い、できる事の把握に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ケアマネが中心となり可能な限りご本人・ご家族の意見や要望を聞く機会を作ったり、スタッフや必要な関係者等と話し合いを持ちそれぞれの意見等を調整し状況や状態に合った介護計画の作成に努めている</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を反映して、介護計画を作成している。作成した介護計画は訪問時に家族に説明し承諾を得ている。遠方の家族には介護計画を送付し、時には手紙入りの返信がくることもある。個人ファイルや日々の記録ファイルの表紙に介護計画を添付し、常に職員が目標を確認できるよう工夫している。利用者毎の担当職員がアセスメントと毎月のモニタリングを行い評価をしている。必要に応じて、介護計画の見直しをしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の様子やケアの実践は個別記録に記入している。記録の方法等においても分かりやすい記録用紙を工夫している。また、気づいた事はカンファレンスやノートを利用し情報共有に努め介護計画の見直しにも活かしている</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 利用者やご家族の状況やニーズに応じて必要な対応を検討し、可能な限り柔軟な対応を心掛けている</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 利用者の重度化に伴い、外に出ていく機会が少なくなっているが、お祭りや事業所の行事などに地域の人に来てもらったり、近くで散歩や買い物に出かけるなど楽しむ事ができるよう支援している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人家族と話し合い可能な限り、今までのかかりつけ医を 継続し受診支援を行っている。受診時は、日々の心身の状 態把握をした上で主治医に情報提供を行い、助言等も頂き ながら適切な医療が受けられるよう支援している	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診することがで きる。受診には管理者が同行して利用者の情報を医師に伝 え、かかりつけ医と連携が密に取れるよう支援している。 また、協力医に往診を依頼することも可能で、24時間対応 で電話連絡を取ることができ、夜間の急変時には適切な指 示が仰げる体制づくりをしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は、日々利用者に関わる中で状態変化や異常に気 付いた時に看護職員に報告や相談を行い、必要に応じて受 診につなげている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には情報提供を行ったり、入院中も連絡を取り合う など状況把握に努めている。退院時は、地域連携室や医者 による連携のもとカンファレンスを行いスムーズに退院が 出来るように相互に協力している	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期のあり方については家族と早い段階から話し合いを 行うようにしているが、体調が重度化してきた場合は、主 治医を含めた面談の機会を設け、事業所でできる事を説明 した上で方針を決めていくようにしている。	
			(外部評価) 「重度化した場合における（看取り）指針」を作成し、入 居時に利用者や家族に説明している。昨年末から看取り支 援をしている利用者があり、家族や医師、職員が話し合い を重ね、利用者や家族の思いを受け止めながら穏やかな最 期を迎えられるよう取り組んでいる。また、看取り経験の ない職員も多く、看護師資格を持つ管理者が身体状況の変 化に伴う対応方法を日々のケアの中で指導している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し職員全員が把握理解できるようにしている。また、研修会や学習会への参加を行いながら実践力を身に付けられるよう努めている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもと年2回、全職員で避難訓練を行い指導してもらっている。避難訓練には、隣のマンションからも参加してもらったり、運営推進委員に消防団長さんがおり助言もしてもらい協力体制を築けるよう努力している (外部評価) 5月と7月の年2回、夜間など厳しい状況を想定した避難訓練を実施している。訓練には事業所隣のマンションの住人に参加してもらい、実際に避難した利用者の見守りをお願いしている。訓練後には消防署から懐中電灯を持っていない、緊急連絡網の連絡が早すぎるなどの細かい指導があり、職員は経験を積み重ねながら防災意識を高めている。	避難訓練には初めて近隣住民の参加があり、具体的な役割を担ってもらい訓練を行うことができた。今後も近隣住民に訓練への継続した参加協力を呼びかけ、さらなる協力体制が築けることを期待したい。また、管理者は備蓄品の用意が不十分であると認識していることから、内容や数量等を充実させていくことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ケアを行う際、可能な限り本人の意思の確認を行い、排泄や入浴などもマンツーマンを心掛けている。また、人格の尊重やプライバシーについて学習会を行ったり、日々のケアの中で言葉かけや対応について指導を行っている (外部評価) 一人ひとりの気持ちを大切に、利用者の状況に合わせた声かけのタイミングや声の大きさに配慮した対応を心がけている。地元の方言がきつく聞こえることがあるため、職員同士で常に気をつけている。必要に応じて、ミーティングで利用者の思いを大切にケアについて話し合い、羞恥心や誇りを損ねない支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で本人の思いや希望について気づいてあげられるよう努めている。また、言葉かけも本人が意見を述べられる聞き方を工夫し職員目線にならないよう心掛けている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のパターンを把握し、本人の希望を取り入れながらその人のペースに合わせた暮らしが出来るよう努めている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪の希望時は近所の理髪店に送迎したり、その人に合った洋服選びをしたりしている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の野菜を使った調理をし楽しみながら摂取できる様工夫している。準備出来る方が少なくなったが、豆はぎなどできる事は一緒にしている。片づけも出来る人には手伝ってもらっている	
			(外部評価) 職員は利用者と同じテーブルを囲み、和やかな雰囲気です事をしている。近所の方から野菜などの差し入れがあった場合には、おかずが1品増えることもある。3時のおやつは、利用者の希望に応じて手作りしたり、買い物をしたりしている。また、誕生会にはケーキを手作りしたり、お正月にはぜんざいや成人式には赤飯、節分には手巻き寿司パーティーをしたりするなど、季節を感じながら食事に楽しみが持てるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事量のチェックと必要に応じて水分チェックを行い、1日に必要な量が確保できるよう、摂取困難者には、食べやすい形状にするなどの工夫をしている。水分補給には、スポーツ飲料や好みによりコーヒーなどで補っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っている。声かけが必要な人、介助が必要な人を理解し、状態に合わせた対応をしている。義歯の方は、毎回洗浄、週1回消毒を行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄状態を把握し、その人の排泄パターンに合わせた時間的・随時のトイレ誘導を心掛け、可能な限りトイレでの排泄を目指している。また、全てを介助するのではなく、ズボンの上げ下ろしなどその人が出来る所は声掛けや見守りを行うようにしている	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しており、日中はできる限りトイレで排泄できるよう努めている。リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、失敗したパンツをタンズにしまっていた利用者に新聞紙を準備したところ、他人の目に触れないように新聞紙に包み、洗濯機の前に置くようになった事例もあり、一人ひとりの思いをくみ取った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に対する知識が得られるよう学習会を行い、便秘予防には、バナナや牛乳などの提供を積極的に行ったり、腹部マッサージ、散歩などを試みている。日々の排便チェックをこまめに行い場合により下剤調整もおこなっている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回入浴を実施している。曜日や時間帯は比較的決まってしまう傾向にあるが、マンツーマン対応でゆっくり入浴できる様にしている。また、一度の声掛けでは、入れない方には人や時間をずらす等の工夫をしている。ゆず湯なども行っている	
			(外部評価) 週3回を基本として入浴ができるよう支援している。利用者の身体状況に応じて、滑り止めマットやシャワーチェアを活用したり、2人体制で介助をしたりするなど、安心安全に入浴できるよう支援している。併設施設にはリフト浴があり、湯船に浸かることが困難な利用者は利用することもあり、気持ち良くゆっくりと入浴できるよう支援している。また、入浴を嫌う利用者には声かけやタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、レクリエーションや散歩、日光浴などを行いできるだけ離床を心がけているが、利用者の心身の状態により休養する時間も設けている。室内の温度調節や就床前のトイレ誘導等を行いゆっくり休めるよう環境調整も行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬内容が分かるよう提示、各職員が理解し服薬が正確に行えるよう支援している。日頃から状態観察をしっかりと行い、異常の早期発見に努めている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味を生かしたレクの取組みや洗濯干しや洗濯たたみなどの役割作りを行ったり、好きなコーヒーを提供したり楽しみや張りのある生活ができるよう努めている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 理髪店・ドライブ・買い物など一人ひとりの希望に出来るだけ添いながら戸外に出かけている。意思の伝達が出来ない人もいるが、散歩や日光浴等行っている。帰宅願望のある方と自宅の様子を見に行った事もある (外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩したり、玄関先で外気浴したりして気分転換できるよう努めている。季節毎に近くの小学校へお花見に行ったり、彼岸花やこいのぼりを見に行ったりすることができるよう支援している。5月には家族の協力を得て一緒に遠足に出かける計画をしていたが、今年度はあいにく雨天のため、集会所を借りて一緒に弁当を食べながら、楽しい時間を過ごすことができた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持が出来る人が限られているが、可能な状況の中でお金を使う場面も作っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書いたり電話を自ら出来る人が現在はいないが、家族から電話がかかった時は、通話できる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地良く過ごせるように季節のお花を飾ったり、自分達が作った作品を飾っている。トイレや居室の場所が分からない利用者の方がいる為、分かりやすく表示している。室温もこまめに調節したり光が強い時はカーテンをするなどしている。職員の声のトーンにも注意している (外部評価) 自然光で明るく落ち着いた雰囲気のリビングと食堂には、正月飾りを飾るなど季節を感じられる工夫をしている。また、廊下には利用者の趣味で作られた俳句やイベント時の写真などを飾っている。利用者はソファでくつろいだり、おしゃべりやぬり絵を楽しんだりするなど、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 狭い空間だが、ソファの位置を変えたり気の合った利用者同士でおしゃべりが出来るよう席の工夫をしている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具や安心できる物を持参して頂き、本人が居心地良く過ごせるようにしている。また、自分で作った作品も自由に飾ったりしている (外部評価) 居室にはベッド、エアコンが備え付けられている。利用者はタンスや布団、テレビなどの使い慣れた物や、家族の写真や位牌などの馴染みの物を持ち込んでいる。壁には利用者が作った作品や誕生会でもらった色紙などが飾られており、利用者が居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 部屋やトイレの場所には目印や表示をする事で分かりやすくし、手すりを必要な場所に設置し、出来るだけ立位や歩行の支援が出来るように配慮している。廊下には障害物になるようなものを置かないよう日頃より気を付けている	